

1月16日～31日の国内外外国為替市場動向

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
07/01/16 (火)	東京は揉み合い。本邦利上げ見送り観測から円売り先行するも、尾身発言を受けて逆に買い戻し。欧米は突発的なニュースや噂などで荒い値動き。引き続き日銀の去就が注目を集めていた。	・11月鉱工業生産確報値0.8% ・1月独ZEW景況指数 3.6% ・1月NY連銀景気指数9.1 ・「安部首相が利上げ承認」の噂 ・米議会建物に避難命令が発令され、テロ感懸念台頭	・尾身財務相「日銀会合、議決延期請求権を使う局面ではない」 ・TBS「日銀が1月利上げ見送りの方向で最終調整」	120.45 120.77 120.23 120.66	155.79 156.33 155.73 155.87	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/17 (水)	東京は日銀の利上げ見送り観測強まり円安続いてもOP絡みのオーガ-などに遮られドル/円はやや上げ渋り。欧米はドルが底堅い。発表された米経済指標は総じて良好。それもあり米早期利下げ観測は後退へ。	・11月経常黒字1兆7564億円、同貿易黒字1兆321億円 ・12月の米PPIは0.9%、同鉱工業生産0.4%、同設備稼働率81.8%、11月対米証券投資749億ドル、1月NAHB住宅建設業者指数35	・官房長官「日銀の独立性もありコメントは差し控えたい」 ・安部首相「日銀は適切に判断すると信じている」 ・米地区連銀報告「ほとんどの地区で景気は緩やかな拡大」	120.80 120.88 120.34 120.65	156.04 156.22 155.52 156.10	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/18 (木)	東京は織り込まれていたと思われた日銀利上げ見送りに対する失望から円売り優勢。ドル/円は121円台へ。欧米は発表された米経済指標がこの日も良好で素直にドル買い進む。ただ上値では利食い売りも厚い。	・11月第3次産業活動指数 0.3% ・日銀が決定会合におき6:3で金利据え置きを決定 ・12月の米CPIは0.5%、同住宅着工164.2万戸、同建設許可159.6万戸、1月FF連銀景気指数8.3	・日銀金融月報「景気は緩やかに回復」と景気判断を据え置き ・イランのミサイルが米国の軍艦を攻撃した、との噂	120.63 121.60 120.48 121.23	156.08 157.39 156.00 157.16	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/19 (金)	東京は尾身発言を円安容認と捉えた向きによる円売り優勢。一時121円半ばも。欧米はこの日も発表された米経済指標が強くドル買い先行。ただ欧州利上げ観測に終盤は押される。	・1月のミシガン消費者信頼感指数98.0	・尾身財務相「為替はファンダメンタルズを反映している」と理解 ・シュタルクECB理事「ユーロ圏の金利は依然として低水準」 ・メルク独首相「ECBへの政治圧力はユーロの信任を損ねる」	121.28 121.49 121.10 121.23	157.18 157.68 156.87 157.14	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/22 (月)	東京は依然として加配中心の円安基調続く。ドル/円も上値を試す展開となったが122円には届かず。欧米は英国の金利引き上げ観測を材料にポンド/円など対欧州通貨で円安進む。	・1月月例経済報告「景気の基調判断は据え置き」	・ラトMF専務理事「投資家はキャリートレードが永遠に続くと考えるべきではない」 ・独連銀総裁「ECBは断固、時期を得た行動する用意がある」	121.28 121.80 121.28 121.66	157.19 157.64 157.19 157.55	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/23 (火)	東京は2月の本邦利上げ見送り懸念から円売り再び優勢。ドル/円は121.75円のドル高値を示現した。欧米は地政学リスクの高まりからドル売りでスタート。しかし続かず。その後は福井発言などから円安の流れ。	・日銀が12月会合の議事録要旨を公開 ・一部アラブ紙「米国は4月にもイランへ侵攻か」 ・12月の米景気先行指数0.3%、1月のリッチモンド連銀指数 11	・仏中銀総裁「ECBはユーロ相場について目標を定めてはいない」 ・日銀総裁「キャリートレードの急激な巻き戻しは危険」 ・米大統領「石油戦略備蓄の規模倍増を提案する」	121.63 121.75 121.11 121.63	157.51 158.49 157.36 158.42	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/24 (水)	東京は円が急反発。とくに目立った材料はなかったものの円キャリの巻き戻しと思いき円買い活発。欧米は大荒れの相場展開。政治要因に着目しつつ、利上げ期待が剥落したポンドを中心に円高が進行。	・米大統領一般教書演説 ・第4四半期英GDP速報値0.8% ・BOEが1月会合の議事録要旨公開「5:4で金利引き上げ決定」 ・ルウェーが25BPの金利引き上げ	・米大統領「イラクで失敗すれば将来悲惨なことになる」 ・閣僚筋「ユーログループは弱い円に対し、強いIG7メッセージ求める意向」 ・独首相顧問「G7ではおそらく円の下落問題を取り上げる可能性」	121.68 121.79 120.65 121.20	158.43 158.62 156.47 157.20	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/25 (木)	東京はG7をにらんだ動きに加え、強気な須田発言を受けて円の買戻しが活発。1円以上も円高進行。欧米は独財務次官渡辺財務官などがG7での円安議論に否定的な見解を示したことで一転円が独歩安。	・12月貿易黒字1兆1150億円 ・1月の独IFO景況指数107.9 ・12月の米中古住宅販売件数622万戸	・須田日銀審議委員「利上げ遅れると経済活動に大きな振れ」 ・黒田アジア開銀総裁「キャリートレードによる円安は行き過ぎ」 ・独財務次官「現時点では円安をG7の議題にする予定はない」	120.89 121.29 120.19 121.25	156.70 157.12 155.77 156.79	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/26 (金)	東京は発表されたコア消費者物価が予想を下回り、2月利上げが遠のいたとの見方に、円売り要因。欧米は発表された米経済指標が良好であったことに、要人発言も加わりドル高・円安の流れ変わらず。	・12月消費者物価指数0.3%、同コア指数0.1% ・12月の米耐久財受注3.1%、同新規住宅販売112万戸	・露中銀「外準の構成を一段と多様化する計画」 ・独連銀総裁「G7で為替が主要議題になるとは思えない」 ・米財務次官「日本の経済政策は適切」	121.62 121.66 121.25 121.55	157.33 157.33 156.55 156.95	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/29 (月)	東京は新規材料乏しいなか月末外貨投信に絡む円売りなどから円安進行。ドル/円は122円台へ。欧米は要人の発言を受けて右往左往。ただ最終的にはG7への警戒感が勝り、円高レベルで大引けた。		・藤井財務次官「円安がG7で議題に取り上げられることは承知していない」 ・ルクセンブルグ首相「ユーロ円相場はとくに議論した」 ・独財務相「EUは為替問題をG7主要議題にするよう要請」	121.49 122.20 121.49 121.74	157.00 158.00 156.94 157.74	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/30 (火)	東京はG7を前にした調整売りにドル/円は軟化するも押し目買い意欲強く、むしろ終盤はドル高傾向。欧米は欧州発の円安牽制発言相次ぎ円買い優勢ムード。ただ円売り遅れ筋が戻りを強く抑制。	・12月完全失業率4.1%、同鉱工業生産0.7% ・1月米消費者信頼感指数110.3	・独財務相「G7では為替について協議の見通し」 ・尾身財務相「為替はファンダメンタルズを反映すべき」 ・仏経財相「ユーロ圏は円が日本の経済情勢を反映しているか議論した」	121.74 122.00 121.47 121.62	157.79 158.15 157.40 157.74	24H 寄付 安値 高値 終値
07/01/31 (水)	東京は121円半ば狭みで揉み合い。夜半のFOMCなどにらみ売買手控えムード。欧米で発表された米経済指標は強	・1月のADP全米雇用報告15.2万人、同シカゴ購買部協会指数48.8、第4四半期GDP速報値3.5%、12月の米建設支出 0.4%	・仏中銀総裁「円の動向はファンダメンタルズを反映していない」 ・独経済相「ユーロドルは独自自動車業界にとって懸念材料ではない」	121.70 121.74 120.62	157.77 157.86 156.80	24H 寄付 安値 高値

弱混在。ただFOMCが失望の内容に留まりドル売り優勢に。	・FOMCで金利据え置き決定、声明は若干ドル安内容に	・米財務長官「円相場を非常に注視」	120.70	157.31	終値
------------------------------	----------------------------	-------------------	--------	--------	----

* 製作・著作：「FXニューズレター」 URL： <http://www.fx-newsletter.com/>

FX-newsletter

FX-newsletter